

JAL123 便事故から 39 年、あの教訓はどこに？

8.12 羽田スタンディング

争議解決なくして安全なし！！



8 月 12 日（月） 12:00～13:00

第 1 ターミナル到着階 8 番バス停付近集合

1985 年 8 月 12 日に JAL123 便が御巣鷹の尾根に墜落した事故の後、JAL 経営陣は 4 つの方針を掲げました。

- ① 絶対安全の確立
- ② 現場第一主義
- ③ 公正明朗な人事
- ④ 労使関係の安定・融和

この方針をいつの間にか風化させ、2010 年の経営破綻時には、「利益なくして安全なし」の経営理念を掲げ、闘う組合の弱体化、モノ言う労働者を排除するため 165 名の解雇に突き進みました。更生計画の人員削減目標を超過達成した必要のない解雇で、経営自ら安全の基盤である労使の信頼関係を断ち切ったのです。

それから 13 年、JAL は国土交通省航空局から昨年 12 月 22 日に業務改善勧告、今年 5 月 27 日に嚴重注意を受けました。絶対安全からほど遠い状況は、現場第一主義が無視され、ベテラン解雇で「経験」が軽視され、何より自由にモノが言えない職場に問題があるのではないのでしょうか。

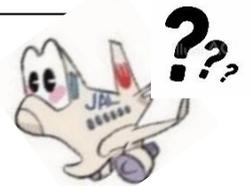
争議解決なくして安全はありません。安全なくして利益はないのです。JAL は命を運んでいることを、今一度肝に銘ずるべきです。

赤坂会長

「原点に立ち戻って安全のために日々の緊張感を保っていく、これを今一度徹底する」（6/4 北海道新聞インタビューより）
→精神論だけで具体策は？

鳥取社長

「私が安全については責任を持って対応していくのでご安心下さい」（6/18 株主総会）



多くの方の結集をお願いします！ 労組・団体の旗をお持ち下さい！



- JAL 争議の早期全面会解決をめざす実行委員会
- JAL 闘争を支える会
- JAL 不当解雇撤回争議団
- JAL 被解雇者労働組合 Tel080-4905-3383